香港事務所

NCB 海外レポート

大湾区の未来と可能性⑧

～返還 25 周年を迎えたマカオ、観光を軸に産業多様化を目指す～

◇ 返還 25 周年を迎えたマカオ

・2024 年 12 月 20 日、マカオはポルトガルから中国に返還されて 25 周年を迎えました。記念式典には習近平国家主席が出席し「一国二制度を守りつつ、経済の多様化や持続可能な成長を目指すことが重要だ」と述べました。

・また同時に開催された行政長官の就任式では、岑浩輝（サム・ホーファイ）氏が中国本土出身者として初の行政長官に就任しました。中国政府は岑氏に対し、マカオのみならず中国全体の利益拡大を念頭に置いた、多様な経済発展や優れたビジネス環境の創出と、効率的かつ清廉潔白な行政の執行を求めています。

◇ 観光産業への依存からの脱却を目指す

・マカオは、人口約 68 万人、面積は福岡市博多区とほぼ同じ約 33 ㎢の小さな都市ですが、聖ポール天主堂跡をはじめとした世界遺産や、世界最多の 24 軒もの 5 つ星ホテル*1、世界中の美味しい食事など、豊富な観光資源を有しています。これらを目当てに、2024 年には日本全体の訪日観光客数に匹敵する約 3,500 万人もの外国人がマカオを訪れています。

・そんなマカオの発展に最も貢献してきたのがカジノ産業です。2002 年に外資参入が解禁されて以降、マカオは世界有数のギャンブルの中心地となりました。2024 年のマカオのカジノ売上は 2,267 億パタカ（約 4.4 兆円）と、マカオの名目 GDP の 52%超を占め、税収の面でも歳入のおよそ 8 割をカジノ収益に依存している状態です*2。

・マカオ政府はカジノ産業への依存度を低減するため、2023 年に「経済適度多元化発展計画」を策定しました。計画ではカジノを中心とした観光産業を主軸としつつも、隣接する広東省珠海市と連動した金融・漢方医薬・ハイテクなどの分野で中国と海外を繋ぐハブ化、国際的な会議やイベントの誘致による国際交流拠点化を目指すとしています。

(上)観光客で賑わう世界遺産の聖ポール天主堂跡
(下)マカオ経済を支えるカジノ
出所：香港駐在員事務所撮影

◇ 多様化には時間を要するが、観光産業が人を引き寄せる？

・マカオの産業多様化がどのように発展していくかは未知数ですが、いずれにせよ国際的な会議やイベントが増加することで、マカオへの人の往来も活発になることが期待されます。

・マカオや同じ立場の香港には既に日本の飲食店やレジャー施設が進出していて、更なる進出や中華圏の投資家による誘致の動きも見られます。観光客が多く訪れるマカオ・香港への進出は、他の海外進出の足掛かりとなるだけでなく、日本へのインバウンド誘致にも繋がる事でしょう。

・そしてこうした動きが更に加速していけば、日本をモチーフにしたホテルリゾートがマカオに誕生する、なんて未来もあるのかもしれません。

*1 フォーブス・トラベルガイド 2025 年版
*2 マカオ統計調査局、IMF 推計値から香港駐在員事務所で推計

2025 年 3 月 5 日作成
西日本シティ銀行香港駐在員事務所